

推薦委員会ならびに

在京委員会報告

昭和四十一年度村研総会で選挙された推薦委員が、新たな委員会をどのように構成するか相談するため、去る十一月九日（水）午後六時より慶應義塾大学野口ルームに集りました。なお当日出席の推薦委員は福武直・中野卓・島崎稔の三氏だけでしたが、小池基之・竹内利美両氏よりは書面により御意見が寄せられ、有賀喜左衛門・川越淳二両氏よりは事前に口頭で御意見をよせられておりましたので、時日の遅延を避ける必要もあり、この席で前記総会の委託にもとづく運営委員・編集委員の選任を別掲のとおりおこないました。当時は引続き午後六時半より旧編集委員会も召集されておりましたので、これまで小池委員長のもとで編集事務に当つて来た米地実坂井達朗両氏、また前事務局担当の龍野四郎氏の参加をえて、旧拡大委員会方式による在京委員会に移行することとしました。それは次の緊急を要する議事があつたためです。

ひとつは、新委員会を発足させるための連絡の仕方、もうひとつは年報第三集のための公募の仕方をきめることです。これは、年内に運営・編集両委員会を開催する必要があります、そのため東京以外に在住される委員の御意見を問い合わせること、また年内に原稿公募の

記事を載せた村研通信を愛知大の事務局より刊行発送していただけます。そこでするためには新委員会の第一回の会合が開かれてからでは、原稿〆切を大幅に早くする要ありとの申し送りを実現できなくなるためです。

これらを解決するため、右の在京委員会で次の方針をとることがきまりました。

- (1) 別掲のような公募記事を村研通信に出すこと。
- (2) 第三集のための応急の編集事務は、さしあたり東京大学文学部福武直研究室で開始する。これは第二集までの年報編集の中心となつて下さった慶應義塾大学経済学部小池基之氏よりとの邊で交替してほしい旨御要望があり、創刊よりの御尽力で既に軌道にのせていただきたいことであり、また、更にして続けてと御願いしても御無理なことも了承されたからであります。
- (3) 運営委員会は在京者五名と東京以外に在住される方々一一名で構成されているので、十二月に開かれる同委員会の通知を出すさい、当日御出席いただけない方からは御意見を寄せて下さるよう御願いすること。
- (4) 新しい委員による第一回の運営委員会ならびに編集委員会は十二月九日（金）午後七時より中央大学五号館九七一号室で合同委員会として開催する。
- (5) 以上の件につき愛知大学にある村落事務局への連絡は東京教育大学文学部中野卓研究室で担当し、以後、在京の連絡所として運営委員会関係の連絡にあたり、事務局の活動を補佐する。